

潤の少い配給業あたりでは輸送途中のロス等を過大に申告し、之を横流しする等の手段を用いているものもある(電球、ガラス等に多い)。

(f) 増資……製塩業、醬油業方面では相当増資が目立っているが、一般には資金調整法廃止後も些して見るべきものはない。之は管下の企業が会社組織と言つても殆ど個人乃至同族会社であるため新資本の導入に付ては資産評価替不可能である今日之を忌避していること、及び金詰り企業の株主の多くが現在資力が少ないことに原因する。

(g) 開金融……總体的に金額も小さく(一回の貸付はせいゝ最高五〇万円程度)一部商店筋が一時的に依存することはあつても、相当の会社筋が之に依存するといふ事例はまだ殆ど聞かない。

現在迄の処各企業がとつてゐる対策は概ね右の如きであり、経営の合理化過剰雇傭の整理等積極的対策をとつてゐる業者は殆どない状態である。然し今迄の処は此の程度の弥縫策で何とか切抜けて來られたのであるが、愈々近き将来に於ては整理恐慌に直面不可避の情勢に各企業とも漸く之が対策につき真剣味を帯びて來たことは否めない事実である。

(h) 此儘推移すれば企業はどうなるか

企業金の詰り経営難は以上總観して各般企業の一般現象と認められる。而してその發生の原因として生産企業に於ては原材料の配給不足、割安ストックの枯渴、高値の闇依存に根源の存することを觀察した訳である。従つて企業の今後に於ける推移は客觀的狀態に急激な好転を期待出來ない限り企業の経営難の打開は容易なものではない。従て今後金詰りは激化し企業の淘汰を促進することは一応不可避と考えられる。然し昨年末頃企業金詰りの声の極めて深刻なものがあつたのに対し、其の後数ヶ月を経て而もこの間多額の納税の賦課された外、売行減退による収入減等を見たのにも拘らず、今日猶管下大部分の企業は金詰りを何とか切抜けて來てゐる実状も等閑に附し難いものがある。

企業自体としても金詰りの結果企業の合理化を愈々推進せしめることを要する段階に立至つたが、この気構は経営者側のみならず、一部労働者側にも強く現われて來てゐるから、一般企業は之によつて経営の改善維持が図られ得るものと考

えられる。

尤も前記の如く土建業の如き現在の情勢が続くならば、整理は更に促進せらるること不可避と見られる。又新興商事部内に於ても略々同様の事態が予想せられる。然し乍ら現在の如く非能率工業の濫立、闇企業の跋扈の狀態に鑑み或る程度の淘汰は必然であり、又当然行わるべきであらう。(高松支店 久米)

我国物価体系の不均衡について

昭和23・10・1

目 次

一、まえがき

二、最近に於ける我国物価の騰貴率

(1) 公定価格

(2) 闇 価 格

三、最近に於ける日米購買力の比較

四、価格体系不均衡の要因

五、結 び

一、まえがき

最近單一レート設定の機運が漸次濃化するに至つたので之が可否を論ずる為の一資料として最近に於ける我国物価の構造並に日米購買力の比較を通じて我国物価体系が如何に不均衡であるかを実証してみたい。

二、最近に於ける我国物価の騰貴率

最近に於ける我国物価の構造を分析する前に次の二点に留意する必要がある。先づ第一点は戦時中より引続き統制経済の必然的産物たる、公定、闇の二本立となつてゐることである。此兩者は各々其領域を有し、凡ゆる物資の正常なる需給を歪曲してゐる。従つて現在の物価たる公定、闇の両価格は何れも正常の意味の

物価でない事は明らかである。第二点は右の様な二つの物価体系が相互に牽引つゝあることである。即ち数次に互る公定価格の全面的改訂は一面公定価格の關價格に対する追隨であつたが、反面關價格騰貴の因とも見る事が出来る。

(1) 公定價格(卸売價格)

終戦後の四時点——二十年十二月(公定物価体系の最混亂期)二十一年三月(第一次物価体系設定)二十二年七月(第二次物価体系設定)二十三年六月(第三次物価体系設定)——に於ける公定物価を一応の自然價格を形成していたと見られる戦前の昭和十一年平均價格に比較して其倍率を見れば第一表の如くである。

先づ昭和二十年末に付見るに、第一に、消費財、生産財の各品目共極めて不均衡である。其較差の最大の事例としては、消費財では、鶏卵の三十三・七と羊毛一・一との差三十二・六、生産財では板硝子の二十一・五と硫酸の一・〇との差二十・五を挙げ得る。第二に平均倍率は終戦後の消費財に対する需要旺盛を反映して、消費財八・七と生産財の六・三を上廻っている。

次に昭和二十一年三月第一次物価体系に於ける公定價格に付見ると、消費財、生産財共各品目は引続き不均衡である。其較差の最大の事例としては、消費財では、鶏卵の百十四・八と毛糸七・四との差百七・四、生産財では板硝子六十七・六と硫酸六・三との差六十一・三を挙げ得る。尚平均倍率は依然たる消費財に対する需要旺盛を反映して、消費財三十六・三に対し生産財二十五・四と、兩者の比率(一・四三)は、前期(一・三八)に比し拡大している。

次に昭和二十二年七月第二次物価体系の形成に際しては、従来の経験に鑑み價格相互間の均衡に留意し重要基礎物資に付ては基準年(昭和九—十一年平均)の平均六十五倍の線を價格安定帶としたにも拘らず、消費財、生産財共各品目は未だ不均衡な形を示してをり、其較差の最大の事例としては、消費財では、鶏卵二百二十九・六、毛糸二十三・一との差二百六・五、生産財では板硝子二百八・四、錫二十六・九との差百八十一・五を挙げ得る。又平均倍率は、消費財九十九・一、生産財八十一・六と依然として消費財は生産財を上廻っている。

次に昭和二十三年六月、第三次物価体系の形成に際しては、重要基礎物資の價格安定帶を基準年(昭和九—十一年平均)の百十倍に引上げ、従来の体系のデコボ

コを補正したにも拘らず消費財、生産財共各品目は尚、不均衡な形を示してをり其較差の最大の事例としては、消費財では鶏卵四百六十六、毛糸六十一・一との差四百四・九、生産財では板硝子四百八十八・七、錫二十六・九との差四百六十一・八を挙げ得る。又平均倍率は消費財二百十七・八、生産財百八十八・六と兩者の比率(一・一五)は、前期(一・二二)に比し僅に縮小している。

(2) 關價格(小売價格)

終戦後の四時点——二十年十二月(生鮮食料品、日用品の公定價格撤廃に端を発した物価の混亂期)二十一年四月(經濟緊急措置の一環としての第一次物価体系形成開始後一ヶ月)二十二年八月(第二次物価体系形成開始後一ヶ月)二十三年六月(最近)——に於ける關物価を一応自然價格を形成していたと思われる戦前の昭和十一年平均價格(關小売マージン推定平均二割五分を以て小売價格に修正)に比較して、其倍率を見れば第二表の如くである(生産財關價格指數は二十一年八月より存在しているに過ぎない為、前記四時点の前二点は消費財のみである)。

即ち先づ昭和二十一年十二月(消費財のみ)に於ては第一に各品目の騰貴率の不均衡は公定價格の場合と同様著しく、其較差の最大の例は、塩四百三十五・三と牛肉三十七・八との差、三百九十七・五であり、第二に、平均倍率は百八十二・七と公定價格の場合に比し格段の相違がある。

次に、昭和二十一年四月に付見ると、第一に、全面的な消費財高を反映して各品目の騰貴率の不均衡は幾分均らされてはいるが、其較差の最大は、塩の五百二十三・五と牛肉の八十との差四百四十三・五であり、第二に平均倍率は、二百五十二・九と前期に於ける騰り遅れ商品の騰勢を反映して消費財需要の根強さを示している。

次に二十二年八月(生産財を加う)に付見ると、第一に各品目の騰貴率の不均衡は著しく其較差の最大は、消費財では塩の四百四十五・六と鶏卵の二百八十七・九との差百五十七・七、生産財では板硝子一千八百八十六・一と銑鉄七十六・五との差一千九百九・六と生産財に於て特に目立っている。第二に消費財、生産財の平均倍率は、前者三百六十六・九、後者三百五十六・五と、公定價格の場合(二十二年七月平均倍率、消費財九十九・一、生産財八十一・六)と同じく消費財需要

旺盛を示している。

次に昭和二十三年六月に付て見るに、第一に、消費財、生産財共各品目の騰貴率は、依然として不均衡であり、其較差の最大は、消費財では、米六百九十一・九と鶏卵三百八十四・七との差三百七・二、生産財に於て板硝子一千四百一・六と鉄鉄百十五・八との差一千二百八十五・八となつてゐる。第二に平均倍率は消費財五百五・四、生産財五百四十五・三と公定価格に於ける消費財倍率の優位に反し、生産財倍率の優位が注目される。之は、最近に於ける消費財需要停滞の一端を反映しているものと云えよう。

三、最近に於ける日米購買力の比較

最近の国内物価構造は前述した如く極めて不均衡なものであるが更に観点を變えて之を対外的に見るならば、如何なる様相を呈しているであらうか。今国内的觀察に於て掲出した品目の若干に付最近の本邦公定価格（二十三年六月の改訂公定価格―卸売価格）と米國卸売価格（ジャーナル・オブ・コンマース誌による一千九百四十八年六月卸売価格）とを比較して、円、弗比率を見れば第三表の如くである。即ち第一に、消費財、生産財共各品目の円弗比率の不均衡が目立ち、其較差の最大は消費財では、牛肉六百八・六九と綿糸六十八・七七との差五百三十九・九二、生産財ではカーボン一千三百二十九・〇三と鉄鉄百三十・三七との差一千百九十八・六六に及んでゐる。第二に円、弗平均比率は、消費財二百九十九・二二、生産財四百七十八・七一となつてをり、生産財の高位が目立つが、之は最近に於ける我國生産財の生産能率の低位に基くものである。又消費財倍率の低位は我國食料價格が社会政策上低位に抑えられてゐる結果と思われる。第三に本比較は我國の公定価格を以てした点に注意する必要がある。何故なれば、既に述べた如く我國現在の需給は公定、闇の両價格圈を背景にしている關係上、公定價格のみを以て比較を試みる事は正鵠を得てゐない。併し乍ら一部品種を除いて掲上品目の大部分の闇價格は公定價格を上廻つてゐる現状を考えるならば、本比較は一応の指標として見るべきであらう。

四、價格体系不均衡の要因

戦後我國の物価構造の不均衡は上述の所に依り、略明らかとなつたが抑々一國

の物価構造は、其國の經濟社会の凡ゆる要素から形成されてゐるものである事を考えるならば、右の様な戦後我國物価の特性は戦後日本經濟社会の矛盾に基因すると云えよう。而して更に其矛盾を分析すれば次の四点に分けられると思われる。

即ち第一は、各生産要素の組合せが著しく不合理となつてゐる事である。元來一國の經濟は正常なる貿易を通じ、広く世界經濟との接觸の上に成立つのを原則とする。然るに終戦後再開された我國貿易は未だ連合軍の嚴格なる管理下にあり、之が為我國經濟は戦争以來の封鎖經濟の性格を完全に脱却したとは云ひ難く寧ろ著しく歪曲されてをり、従つて、其經濟構造内部に於ける生産要素の組合せは、勢い不合理とならざるを得ない。

第二は、生産設備の損耗に基く生産能率の低下である。即ち我國の生産設備は全般的に戦災等に因り、損耗著しく且其銷却も極めて不充分である。之が為各産業に於ける生産能率の低下は著しく、且其低下の度合も区々に互つてをり、就中基礎生産財（石炭等）に於ける低下率は著しい。

第三は、需給面の異常性である。即ち戦時中の民需抑制は敗戦に因り一時に爆發した結果、生活必需品を中心とした消費財需要は旺盛を極め、又時期的遅れはあるが、復興資材需要を中心とした生産財需要も亦漸増の傾向にある。此様な需給の異常性は生産不振と原料輸入の困難に因るストックの減少と相俟つて、價格不均衡の近因をなしてをり、消費財中の米、纖維品並に生産財中硝子、金肥たる硫酸等が其好例である。

第四は、經濟統制力の強弱である。即ち政府の經濟統制力は基礎生産財部門並に米等の生活必需品部門に於て著しく強化されて居るがそれ以外の部門に於てはそれ程でなく、従つて其統制の度合は直ちに闇價格を左右せしめてをり、此事は既述の要因に因る基礎生産財（復興資材）消費財（生活必需品）價格の高位を更に推進せしめてゐる。

五、結 び

戦後我國物価構造の不均衡と其要因に付ては、既述の通りであるが物価が一國經濟組織の端的な表現である以上、此様な不均衡はとりもなほさず現在の我國經濟組織の著しい不均衡を物語るものである。恐らく公定價格の數回に互る大幅の

しかも不均等な引上げを認めてきた我国の物価体系は一本為替設定直前に於けるドイツやイタリーの場合に比し遙かに不均等の程度が甚しいものと推測せられる。即ち一本為替設定前に於けるドイツ並にイタリーの戦前(一千九百三十八年—昭和十三年)を基準とする公定物価騰貴率は、夫々二割五分(一千九百四十六年十一月)六十倍(一千九百四十七年十月)であつたのに対し、我国の公定価格は所謂

価格安定帯を戦前(昭和九—十一年平均)の百十倍としているのであるから、その不均等性が前記二国の其れを遙に凌ぐ可能性ありと推定してもさして危険ではないであらう。従つてドイツやイタリーが一本為替を採用したからと云つて無条件に一本為替を設定せよと云うことは甚だしい危険を伴うものであることを覚悟せねばならない。(隈 崎)

第一表 基準時(昭和十一年)価格に対する最近の公定価格倍率(卸売価格)

品 種	単 位	基準時 昭和十一年 平均 価格 円		昭和二十年 末		昭和二十一年 三月		昭和二十二年 七月		昭和二十三年 六月	
		価 格	格の倍率	価 格	格の倍率	価 格	格の倍率	価 格	格の倍率	価 格	格の倍率
消費財	米(内地米)	石	三〇・四三	七八・五三	二・六	四七三・二五	一五・五	一、九八一・七七	六五・一	三、四七七・〇〇	一四・二
小麦	一袋二二疋	四・二〇	八・一九	二・〇	二〇	七九・三五	一八・九	二七〇・六〇	六四・四	五四一・七〇	二八・九
牛肉	一〇貫	三八・〇〇	一八五・五〇	四・九	四九	一、七八〇・〇〇	四六・八	一、七八〇・〇〇	四六・八	一四、〇〇〇・〇〇	三六八・四
鶏卵	一〇貫	二・七	七三三・〇〇	三三・七	三三・七	二、五〇〇・〇〇	一四・八	五、〇〇〇・〇〇	三九・六	一〇、一五〇・〇〇	四六六・〇
食料平均				一〇・八	一〇・八	四九・〇	四九・〇	一〇、一五〇・〇〇	一〇・四	二六九・四	二六九・四
(織維品)	綿糸	梱	二六・三三	一、三〇〇・九五	六・〇	二、四一五・〇〇	一・七	一〇、三六・〇〇	四八・〇	二、七三三・八八	一〇〇・四
粗布	反	六・五四	六二・二〇	九・五	九・五	一四〇・四五	二四・四	五八一・二九	八八・九	一、一四六・五四	一七五・三
羅紗	米	二・九七	五・六八	一・九	一・九	九九・〇二	三三・三	三四二・二〇	一一五・二	七六四・五〇	二五七・四
毛糸	封度	二・五二	五・一六	二・一	二・一	一八・六二	七・四	五七・九六	二二・一	一五三・四八	六・一
人絹	一〇〇封度	六・一八	九五四・〇〇	一五・四	一五・四	一、八二四・二六	二九・五	七、八〇〇・〇〇	一二六・〇	一四、七〇五・二八	二三七・六
生糸	俵	七〇・四五	二、三三・九〇	二・六	二・六	一四、七〇〇・〇〇	一八・九	五九、七二〇・〇〇	七七・五	一三、一二〇・〇〇	一五九・八
羊毛	封度	二・〇四	二・四二	一・一	一・一	一〇・〇〇	四・九	五五・〇〇	二七・〇	一六五・〇〇	八・八
羽二重	碼	〇・四四	〇・九四	二・一	二・一	一一・九〇	二六・六	五三・五〇	一七・四	五三・五〇	一九・三
メリヤス	打	一六・四〇	二四七・八〇	一五・一	一五・一	四四三・五三	二七・〇	二、一八六・三九	一三・八	三、二六四・〇六	一九九・〇
銘仙	反	三・四八	四六・九〇	一・七	一・七	一八三・五九	五三・八	九四九・一〇	二二・七	九四九・一〇	二七・七
織維品平均				六・七	六・七	一八三・五九	二六・六	九四九・一〇	一九・一	二七・七	二七・七
消費財總平均				八・七	八・七	一八三・五九	三六・三	九四九・一〇	一九・一	二七・七	二七・八
生産財											
(金 属)											

鉄 鉄	一〇〇 匁	五・四九	八三〇・〇〇	一五・三	一、三三〇・〇〇	二二・八	三、〇五〇・〇〇	五・〇	五、一五〇・〇〇	九四・五
錫	一〇〇 匁	三六・七三	四三〇・〇〇	一・一	三、〇〇〇・〇〇	八・九	九、九〇〇・〇〇	二六・九	九、九〇〇・〇〇	二六・九
鉛 鋼	六〇 匁入一樽	七・三九	三九・五〇	五・三	四〇〇・〇〇	五・四	九、〇〇〇・〇〇	二四・五	一、八五〇・〇〇	二四・九
棒 鋼	一〇〇 匁	九・六三	一六・〇〇	一七・四	二六〇・〇〇	二六・九	五、九〇〇・〇〇	六・二	一、〇二二・〇〇	一〇五・〇
真 鋼	一〇〇 匁	三三・〇三	一八・〇〇	五・五	四〇〇・〇〇	二・一	二、三〇〇・〇〇	六・七	五、九二〇・〇〇	一七・九
アルミニウム	一〇〇 匁	八六・七三	二八・〇〇	二・五	一、五九〇・〇〇	一八・三	六、六三九・二六	七・六	一四、〇九八・七七	一六・五
電 銅	一〇〇 匁	一六・四二	四〇・〇〇	二・五	二、五〇〇・〇〇	一五・一	七、二〇〇・〇〇	四三・五	一五、一三九・五〇	九・五
鉄 力	一〇〇 匁	八九・三〇	七〇・〇〇	七・八	一、三三〇・〇〇	一四・六	四、九〇〇・〇〇	五・九	一〇、二〇一・四〇	二四・二
亜 鉛	一〇〇 匁	三四・一八	三、八〇〇・〇〇	一一・一	五、七三〇・〇〇	一六・八	一四、四三〇・〇〇	四二・二	四二、〇二〇・〇〇	一三・一
亜 鉛 板	一〇〇 匁	三七・二九	二四・〇〇	六・四	五〇〇・〇〇	一三・四	一、八〇〇・〇〇	四八・四	四、六三三・七〇	一三・九
金 属 平 均	平 板 一〇 枚	八・二五	二四・〇〇	七・〇	一七三・〇〇	二・五	六八〇・〇〇	六・四	一、四五〇・〇〇	一三・二
(化学薬品)										
硫 安	一〇 匁入一呎	三・六九	三・七九	一・〇	一〇一・八二	二七・六	二、四三三・七五	六・一	四、七九七・八	一三・〇
苛 性 ソーダ	一 匁	二五・三〇	四六・〇〇	三・七	七、二五〇・〇〇	五七・一	二、三四五・〇〇	九・五	二〇、八五六・〇〇	一六・四
硫 酸	一 匁	八二・二五	一〇二・四九	一・二	五九・五〇	六・三	二、二六一・〇〇	二七・四	六、九七四・〇〇	八四・七
ソーダ 灰	一 匁一袋	七五・三〇	八八〇・〇〇	二・七	三、八五〇・〇〇	五・一	六、五三二・〇〇	八七・一	一、一〇五・〇〇	一四・七
化学薬品 平均										
(建築材料)										
セメント	一五〇 平方呎	二五・六〇	一〇一・四〇	四・〇	三〇〇・〇〇	一一・七	一、六四九・二五	六・四	三、九〇三・七〇	一五・四
板 硝 子	一箱	七・三六	一五九・一五	二・五	四九七・三〇	六・七	一、五三四・〇〇	二〇・八	三、五九七・〇〇	四八・七
建築材料 平均										
(燃料)										
石 炭	一 匁	二・二〇	一〇六・二〇	五・〇	五三三・〇〇	二五・二	一、七二〇・〇〇	八・七	四、一四五・〇〇	一九・五
コークス	一 匁	四八・五〇	三〇八・七〇	六・四	七六五・〇〇	一五・八	二、八五六・〇〇	五・八	五、三三三・〇〇	一〇・七
重 油	一 匁	五〇・七五	八六・〇〇	一・七	七三三・七〇	一四・二	四、七四五・〇〇	九・三	九、一五〇・〇〇	一八・二
燃料 平均										
(塗 料)										
ボイル 油	一六 匁入	九・四五	三〇・〇〇	三・三	一三・四三	一一・〇	五八四・二〇	六・八	一、八六五・〇〇	一九・三
塗 料 平 均										
生産財 総 平 均										

註、平均は単純算術平均

第二表 基準時(昭和十一年)價格に対する最近の關價格の倍率(小売價格)

品 種	単 位	基準時 昭和十一年 平均價格		昭和二十年十二月		昭和二十一年四月		昭和二十二年八月		昭和二十三年六月	
		價 格	基準時 價格の倍率	價 格	基準時 價格の倍率	價 格	基準時 價格の倍率	價 格	基準時 價格の倍率		
消費財	升	〇・三八	一五・七八	六五・三二	一七一・六三	一四九・八七	三九四・三九	二六二・九五	六九一・九		
(食料)	袋	五・二五	一一・〇	八三五・〇〇	一五九・〇	一、八九・四一	三六〇・七	三、三八九・七五	六四五・六		
小麦	一〇貫	四七・五〇	三七・八	三、八三・〇〇	八〇・〇	一四、三三・〇〇	三〇一・八	一九六・一二〇〇	四二二・八		
牛肉	一〇貫	二七・二三	八五・九	二、三六〇・〇〇	八六・八	七、八四二・〇〇	二八七・九	一〇、四七六・〇〇	三八四・七		
鶏卵	升	〇・八八	六四・三	九四・六六	一〇七・五	三四一・八〇	三八八・四	四六五・二〇	五二八・六		
味噌	升	〇・六〇	九〇・七	九四・七九	一五七・九	三九・〇四	三八一・七	二五九・〇七	四三二・七		
醬油	升	〇・一三	四三・三	六八・〇六	五三・五	五七・九四	四四五・六	六七・八五	五二・九		
食料平均	反	四・三五	一二・一	一、三九八・八五	一八四・四	三六五・七	三六八・一	二、一四九・四五	四九四・一		
(纖維品)											
織維品平均											
綿											
絹											
消費財總平均											
生産財											
(金屬)											
銑鉄	一〇〇匁	五八・二	二二・三	一、三九八・八五	三三一・五	四、四四七・四四	七六・五	六、七三四・〇〇	一一五・八		
棒鋼	一〇〇枚	二二・〇四	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	三、一六三・九〇	二六二・七	一〇、九九二・〇〇	九二・九		
亜鉛板	一〇枚	二二・〇三	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	三、九〇〇・〇〇	三八一・一	五、五〇〇・〇〇	五八四・四		
金属平均	樽	九二・四	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	一、三五六・二五	一四六・七	四、四六一・〇〇	四八二・七九		
(化学薬品)											
硫酸	一〇〇リットル	一〇三・八	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	一、三五六・二五	二二六・七	四、四六一・〇〇	五一・四		
苛性ソーダ	一〇〇リットル	一五・七三	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	一、三五六・二五	二二六・七	四、四六一・〇〇	五一・四		
ソーダ灰	一〇〇リットル	八四・二三	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	一、三五六・二五	二二六・七	四、四六一・〇〇	五一・四		
硫磺	一〇〇貫	四・六二	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	一、三五六・二五	二二六・七	四、四六一・〇〇	五一・四		
化学薬品平均	一〇〇貫	四・六二	一八二・七	二、三五・二	三三一・五	一、三五六・二五	二二六・七	四、四六一・〇〇	五一・四		

我国物価体系の不均衡について

(建築材料)	セメント	板硝子	建築材料平均	(燃料)	石炭	コークス	燃料平均	生産財総平均
噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
三・〇〇	九・二〇			二六・五〇	六〇・六三			
七、八七八・六〇	一〇、九一二・九四			四、一六〇・七一	九、三〇八・九〇			
二四六・二	一、一八六・一			一五七・〇	一五三・五			
	七一六・一			一五五・〇	三五六・五			
九、八六〇・〇〇	一二、八九五・〇〇			五、二〇〇・〇	九、九八六・〇〇			
三〇八・一	一、四〇一・六五			一九三・一	一六四・七			
	八五四・一			一七八・七	五四五・三			

註 1 平均は単純算術平均

2 間価格は小売物価故基準時価格(卸売価格)は小売価格に修正(二割五分増)

第三表
最近に於ける日米卸売価格円弗比率表

消費財總平均比率	平 人 生 粗 綿 均 糸 糸 布 糸 (織維品)	平 馬 卵 牛 小 米 均 鈴 麦 粉 (食料)	消 費 財 (食料)	品 種
	一〇〇封度	一〇貫 一〇貫 一〇貫	斗 斗	單 位
	三六・〇〇 二・〇〇 三三・〇〇 七四・五〇	一・二七 三・〇〇 三・〇〇 四・六〇 三・〇六	弗	米國價格 (四八年六月)
	二一・七三・〇〇 一、四六・五四 二三・三〇・〇〇 一四・七五・二八	三二・〇〇 一〇、一五・〇〇 一四、〇〇・〇〇 三八・〇〇 三三・〇〇	円	本邦公定價格 (四八年六月)
二九・三	三〇五・一四 一九七・三八 三八・一七 五七三・二七 六八・七七	二九三・三〇 一六・九三 四八三・三三 六〇八・六九 八二・六〇 一五・一六	円	円弗比率 (一弗當)

[illegible]

註 平均は単純算術平均

生産財総平均比率	平 均	平 均	平 均	平 均
(燃 料)	石 炭	コ ー ク ス	平 均	平 均
(塗 料)	カ ー ボ ン	樹 脂	平 均	平 均
恥	恥	恥	恥	恥
五・〇五	四・一五〇〇	一・五五	二・〇〇〇〇	一・三九〇三
一六・八五	五・三三〇〇	一・八三	五・〇〇〇〇	二・四・一五
八〇・七九	三・五・九〇	八〇・五九	四七・七二	

第三次公定価格改訂の諸影響

昭和23・10・1

目 次

- (一) はしがき
- (二) 岡山支店報告
- (三) 秋田支店報告
- (四) 高知支店報告

(一) はしがき

第三次の公定価格の改訂として去る六月二十八日以来物価補正の実施をみるにいたつたが、物価補正の産業界、金融界、一般消費者等各方面に与えた影響を各支店の代表的な報告についてみることにする。岡山支店の報告によつては全般的な影響を、秋田、高知両支店の報告によつては、物価補正に伴う増加運転資金の需要増大に伴う銀行貸出の動向を窺うこととした。

(渡辺 登)

第三次公定価格改訂の諸影響

(二) 岡山支店報告

(イ) 産 業 界

(1) 補正価格が概ね生産者側の要望に沿つたもの

垂炭……数カ月間の赤字累積から一応解放され、生気を取戻したが最近の石炭事情と季節的需要減少に加え賃金高騰気配の爲め来月頃から再び採算割れ必至と見ている。

木炭……数万俵に達していた山元滞貨が続々正常ルートに出荷され始め、駅頭在貨も略々一掃、生産者の増産意欲も非常に高まつている。

ガス……新公価に付ては一応引合が某会社にては現在新公価に織込まれた平均賃金に対し約二倍に達する(現在は織込賃金を僅か上廻る)賃上げ要求が行われて居り、この経過如何によつては甚しい苦境に陥ることが予想されている。

(2) 補正価格が生産者の要望より低きに過ぎたもの

綿織物加工賃……業者申請額をかなり下廻つた為めその対策に腐心して居り、能率増進、経費節減を真剣に考慮する段階に至つたと称している。

蘭草、蘭製品……蘭草は貫一五〇円(二倍引上げ)の決定に対し本年産の生産費は二五〇円以上(現在の蘭価三〇〇円以上)となり、蘭草のまゝ処分すれば到底採算がとれず、一方取締りが厳しい為め農家は苦しい立場に置かれて居る。量表の新公価は現在の蘭値に近い線に引上げられたが本年産の高いコストの蘭草を使用すれば新公価による正規ルートへの出荷困難が予想されて居り、ストックは底をつき、品質を現在以下に落すことも不可能で前途が懸念されている。

塩……入手燃料が新公価基準となつたものに比しはるかに低カロリーである為め五割程度の加算賠償金を要求しているが、業者としては極度の資金難から値上後は収納が進捗している。

薬工品……値上げ率も低く、絶対額が非常に安い為め生産者は到底満足はしていないが、農家の場合は目的が報奨物資(肥料)の獲得にあり、且最近が生産過剰気味で公価を割る気配さえあるので価格の点は些して問題として居